

令和6年能登半島地震における 珠洲市の現状



石川県珠洲市長 泉谷 満寿裕

1 発災直後の状況

令和6年1月1日。昨年5月5日には珠洲市を震源とする震度6強の地震が発生し、局地激甚災害に指定された。新しい年を迎え、今年は復旧を本格的に進めるとともに、復興の年にしたいと決意を新たにしていた。午後4時6分、かなり大きな地震が起きた。私は自宅におり、急いで防災服に着替えていた時だった。午後4時10分、とてつもない揺れ。全てを破壊しつくすような激震が1分余り続いたのだろうか。ようやく揺れが収まり、家族とともになんとか外に出ることができたが、その瞬間、愕然とした。街並みが変わり果てていた。小走りで市役所に向かったが、まともに建っている家はごくわずかで、ほとんどの建物が倒壊するか傾いていた。道路には亀裂が走り、至る所で段差が生じていた。4時12分にはJアラートで津波警報が発出された。4時20分には市役所に着いたと思うが、4時22分には大津波警報がJアラートで発出。市役所は5階建てで、3階以上を津波の一時避難場所に指定しており、多くの市民が避難されて来た。市役所に到着した私が真っ先にしたのは、馳石川県知事に携帯電話で自衛隊の派遣と防災ヘリの出動を要請したことだった。

珠洲市の行政職員は約200名だが、発災

直後に参集できたのは20名もいただろうか。そのわずかな職員で対応にあたった。非常用電源が作動し、緊急用の照明は点灯したが、テレビのスイッチは入らない。市内全域で断水。岸田総理から電話が入り、「壊滅的な状況です」と伝えた。

翌2日には、自衛隊・緊急消防援助隊・警察の広域援助隊が市内を3つのエリアに分担し、人命救助にあたっていただいた。道路が至る所で寸断されており、自衛隊と国土交通省のテックフォースによる道路啓開作業が進められた。また、昨年5月の地震の際の経緯から医療支援をはじめとする支援団体が駆け付けられ、早速、市災害対策本部に「保健・医療・福祉調整本部」を立ち上げた。こうした多くの方々のご尽力により、4日までには指定避難所16か所と自主避難所78か所、合わせて94か所に約7,600名が避難していることが把握できた。さらに、4日からは内閣府、国土交通省、総務省、経済産業省、環境省などからのリエゾンに加え、浜松市、福井県、兵庫県、愛媛県、千葉県、熊本市、松江市、江差町をはじめとする対口支援の職員、合わせて250名余りに参集いただき、政府への要望や避難所の運営にご尽力いただいた。3日には県の手配によるパン1万2千個を配送し、4日からは支援物資や仮設トイレが届き始め、5日早朝には自衛隊と対口支

援の職員により、各避難所への物資の配送体制が構築された。1月6日からは自衛隊による炊き出しと入浴支援が始まるとともに、WOTAの循環式のシャワーボックスと手洗い器が届き、1月11日には熊本市の手配でキャンピングカーが届けられた。

2 被害状況と復旧の現状

住宅の倒壊や大規模土砂災害に加え、4～5mの津波に襲われた地域もあったことから、9月5日現在、災害関連死も含め126名もの多くの方々が尊い命を失われた。住宅の被害が極めて甚大で、市内約5,600世帯のうち全壊が1,700戸余りで約3割、半壊以上が約3分の2の3,700戸余りとなっている。道路や橋梁、港、農地・農



道路被害



倒壊家屋

9/17現在 件数	住家	非住家	合計
全壊	1,738	3,510	5,248
半壊	2,051	2,429	4,480
大規模半壊	413	380	793
中規模半壊	513	515	1,028
半壊	1,125	1,534	2,659
一部損壊	1,752	2,945	4,697
準半壊	883	897	1,780
準半壊に至らない	869	2,048	2,917
被害棟数合計	5,541	8,884	14,425
無被害	52	253	305
総合計	5,593	9,137	14,730

珠洲市における家屋の被害状況

業用施設など市内の至る所で甚大な被害が生じている。困難を極めたのが断水の解消である。国土交通省、日本水道協会、名古屋市上下水道局はじめ各自治体の応援により、3月10日に自治体病院や避難所の一部に通水することができた。

3 復興に向けて

まずは、被災された市民の皆様の一日も早い生活の再建と復旧に全力で取り組むとともに、復興に向けては、市内10地区において、地域の皆様と「新たなまちのかたち」を議論し、決定し、具体的に災害公営住宅の建設などを進めていかなければならない。これまでご支援賜りました全ての皆様に心から感謝申し上げますとともに、復旧・復興に向けて引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。